令和５年度　鈴鹿市立井田川小学校　校内研究実施計画

Ⅰ　研究主題及び教科領域

研究主題

研究主題	聴き合い，伝え合い，主体的に学ぶ子どもをめざして ～「わかる！」授業づくりと安心して学び合える学級集団づくりを通して～
教科・領域	算数

Ⅱ　主題設定の理由

（１）今年度の研修に至るまでの流れ

本校では，「聴き合い，伝え合い，主体的に学ぶ子どもをめざして～「わかる！」授業づくりと安心して学び合える学級集団づくりを通して～」という研究主題を掲げ，算数科を通して研究を進めてきた。昨年度も，めざす子ども像を，「聴き合い，伝え合い，主体的に学ぶ子ども」とし，子ども像に迫るために，〈聴き合うこと〉，〈伝え合うこと〉，〈主体的に学ぶこと〉について取り組みを進めてきた。また，昨年度から，主題に迫るための取り組みとして，授業での ICT の効果的な活用方法を模索してきた。成果としては次のようなものが挙げられる。

聴き合うことについては，課題に対する自分の考えと友だちの考えに相違が見られた際に，進んで友だちの考えを聴こうとする姿が見られるようになったことである。また，ICT や，ペア活動，グループ活動を授業の中に取り入れることによって，聴き合うことにつながった場面も多く見られた。

自分の考えを他者に伝えたり，説明したりすることについては，ICT の活用によって相手に伝える方法の幅を広げることができたことである。ICT を活用しながら，文章を作ったり，自分なりの考えを持ったりすることができるようになってきている。また，自分の考えを伝えたいという思いをもつ子が増えてきている。

主体的に学ぶことについては，課題設定の工夫により，「今までとちがうけれど，どうやってするのだろう」「自分の考えとはちがうけれど，なんでそうなるのだろう」などの子どもの問いを引き出せたことである。このことで，子どもたちの主体的な学びにつながった場面が多く見られた。また，学習した内容で興味があるものに関しては，休み時間に話をしたり，自主学習でより深く調べてきたりする姿が見られた。

このように，昨年度までの研究では一定の成果を得ることができた。しかし様々な課題や子どもたちの気になる姿も明らかになってきた。

聴き合うこと，伝え合うことに関しては，相手の話を聞くことはできているが，相手の意見を受けて質問をしたり，話し合いを深めたりするところま

で至っていないということである。また，伝えようとはしているが，相手を意識して話すことができずに，一方的になってしまうという子どもの実態がある。

主体的に学ぶことに関しては，子どもたちの学習定着度に差があることや，授業者による授業展開が上手くいかなかったりすることで，全員が意欲をもって取り組む学習をさせていくことが難しくなる場面があった。

また，昨年度の児童アンケートにおいて，「自分にはよいところがあると思う」の項目の肯定的回答は８１％であったが，職員の実感としてそれ以上に児童の自己肯定感が低いのではないかという意見が昨年度の反省で多く出た。

そこで，昨年度までの研究成果を活かしつつ，本年度も研究主題を「聴き合い，伝え合い，主体的に学ぶ子どもをめざして～「わかる！」授業づくりと安心して学び合える学級集団づくりを通して～」と設定し，算数科の授業を中心にして，子どもの「分かった！」「できた！」につながる授業づくりと安心して学び合える学級集団づくりの研究を進めていきたい。

（２）主題について

〈聴き合うことについて〉

聴き合う関係とは，発表している人が何を伝えたいのか，何に疑問を感じているのかなどを，話し合いの際にしっかりと聴くことができる関係であると考えている。また，子どもに困り感があるときに，わからないことを「教えて」と相手に聞いたり，また相手がどこでどのように困っているのかを聴いたりすることができる関係とも考えている。

〈伝え合うことについて〉

伝え合う関係とは，相手のことを思いやり，自分の考えや感情を互いに知らせることができる関係と考えている。一方的に考えや思いを話すのではなく，自分の伝えたいことが正確に伝わることをめざしていく。

〈主体的に学ぶことについて〉

主体的な学びとは，学ぶことに興味や関心を持ち，見通しをもって粘り強く取り組み，さらに難しい課題や新しい課題に挑戦しようとする姿が現れるようなものであると考えている。

Ⅲ　具体的な方策

（１）主体的に学ぶために

〈学習に対する心構えをつくる〉

①考えをもつ，② 表明する，③ 仲間の意見との違いを見つける

という「学習に対する心構え」を確実に，子どもたちにもたせる。

①考えをもつ・・・ノートに課題に対する自分の考えを書く。
選択肢から選ぶ。
②表明する・・・自分の考えを発表する。
ハンドサインで選択肢の数字を表す。
うなずいたり，首をかしげたりする。
③仲間の意見との違いを見つける。・・・～と違って
～と少し似ていてなど

教室掲示の話し名人や聴き名人を活用していく。

〈課題設定の工夫〉

子どもが自ら考えたくなるような課題（身近な生活に関わるような課題）になるように工夫をしたり，子どもから出された問いを活かしたりするようにする。

↓

○子どもに問いをもたせる授業づくり

ズレ（自分の考えや感覚とのちがい）を授業の中で引き出すことで，子どもは問いを感じる。ズレがあることを自覚すると，子どもは不安になり，そのズレを乗り越えようと主体的に動き出す。

子どもが動き出す４つのズレ　（参考　新学習指導要領　算数の授業づくり）
① 友だちの考えとのズレ
② 予想とのズレ
③ 感覚とのズレ
④ 既習とのズレ

教師は，子どもがそのズレを追求したくなるように働きかける。

「今までとちがうぞ，どうすればよいだろう」「自分の考えとはちがうぞ，どうしてだろう」など。

（授業展開例）

課題・問題→ズレ→めあて→追求→まとめ・ふり返り

めあて・・・主体的に学習に取り組める「めあて」
（授業力 UP５より抜粋）

（２）聴き合い，伝え合う学習集団の構築

〈ペア・グループでの協働的な学び〉

聴き合い，伝え合う活動をより主体的で対話的な深いものとするために，ペア・グループでの協働的な学びを取り入れる。また，協働的な学びの中で，子どもたちが自分の得意なことをグループ内で発揮し，自分の考えが他者に取り入れられる経験を積むことは，自己肯定感の高まり

にもつながっていくと考える。
これらの実現のために，以下の視点を授業に取り入れる。

①子どもが相互に協力しながら，共通の目標や課題の達成を目指す場面を設定する。 ②ICT を活用し，児童が共同で作成・編集等を行う活動や，多様な意見を共有しつつ話し合いを行う活動などを行う。

子どもが相互に協力して課題に取り組む場面で ICT を活用することにより,文字情報中心の意見を図表やイラストなどの様々な表現に置き換えて可視化し,共有することができる。①と②を密接に関係付け,ICT の効果的な活用場面を設定していく。

〈語彙力を増やす〉
・読書や読み聞かせなど，多くの語彙にふれさせる。感情を表す語彙を増やすことで，自分を客観視できるようになる。

〈算数用語を使って説明する〉
・相手を意識して伝えることができるように，全員が算数用語を正しく理解し，使えるようにする。

（３）子どもにとって「わかる！」授業にするために
わかる授業とは，子どもに学力がしっかりと定着する授業と考える。
〈朝の学習（モジュール）の活用〉
・短時間で集中して取り組み，国語科を中心に基礎・基本の定着を図る。

〈効果的なＴＴでの指導〉
・学習のねらいに合わせて指導方法を工夫改善し，児童一人ひとりの学習意欲や学力の向上を図る。

〈線分図・数直線の系統的な指導〉
子どもが思考するときの手立てになるように，系統的に指導をしていく。
〈取り組みの効果を検証したり，子どもの実態をつかんだりするためのツールとして，学調・スタディ・チェックを活用する〉
第１回スタディ・チェックで見えてきた課題から,学校で統一して取り組む内容を決める。また,２学期の授業研究で課題に関わる授業を行うことで,授業改善のサイクルを回していけるようにする。

本年度は，昨年度の課題である（２）の内容を重点取組とし，指導案に位置付けていくようにする。

Ⅳ　研究構想図

学校教育目標

豊かな心を持ち，自ら考え，たくましく生きる子どもの育成

めざす子ども像

聴き合い，伝え合い，主体的に学ぶ子ども

研究主題

聴き合い，伝え合い，主体的に学ぶ子どもをめざして
～「わかる！」授業づくりと安心して学び合える学級集団づくりを通して～

安心して学び合える学級集団づくり【人権教育】

・学習における基礎基本の力を育てる
・分かった，できたと実感できる授業づくり【研修】

みんなが学びやすくなるための学習規律を整える【生指】

目の前の子どもたちの気になる姿

・固定化した人間関係がある。 ・影響を受けやすく広がりやすい。 ・自分の思いを話したり，相手の話をじっくり聴いたりすることが苦手。	・学習における基礎・基本の力の個人差が大きい。 ・根気よく集中することが難しい。 ・自分の考えを表現することが苦手。	・規範意識は高まってきているが，自分から動こうとする姿が少ない。 ・周りの環境に影響されやすい。

Ⅴ　授業を支える日常の取組

（１）目的

・学習規律に沿って，学級の実態・発達段階を配慮しながら全学年で取り組むことにより，
児童の学習の構えを徹底し，思考の深まりや学力の向上を図る。

・みんなで学び合い，高まり合うための学習集団をつくる。

・学習環境（掲示）や学習用具を整えることで，学習に集中できるようにする。

（２）取り組み内容

○：全学年で取り組んでいきたい項目

●：児童の発達段階に応じて進めていきたい項目

＜朝の会・朝の学習・モジュール＞

○８：２５～８：３０　朝の会
　８：３０～８：４５　朝の学習・モジュール

※月・水→朝の読書（朝読）　火・木・金→朝の学習（朝学）モジュール

＜学習環境＞

○教室前面の掲示物は，子どもに意識させたいものだけにする。
　クラス目標（白い紙に黒字）　声のものさし　話し名人　聞き名人
　よいしせい　発表の仕方

○整理整頓しやすい教室にする。

○教材備品・情報機器・図書・学級文庫など整備

＜学習の始まり＞

○始業のチャイムが鳴ったら，授業を始める。
　遊びをやめてすぐに教室に戻り（３分前），着席して待つ。（チャイム席）
　（高学年は，中学校との接続を考えて，特にチャイム席を意識する。）

○授業の始まりと終わりには，あいさつをする。
　例）●日直「これから○時間目の『○○（教科等）』を始めます。」
　　全員「はいっ」（礼をする）「始めましょう。」

○お世話になる学習ボランティアさんにもあいさつをする。
　例）●「よろしくお願いします。」「ありがとうございました。」
　　●机上には，教科書，ノート，筆箱，下敷きを置く。（書くときには下敷きを使用）

＜授業中＞

○挙手のときには，まっすぐ黙って手を挙げる。

○指名されたら，「はいっ」と返事をして話す。

○発表をするときには，椅子は入れない。（朝と帰りのあいさつの時には入れる）

○「・・・です。」「・・・と思います。」と文末まで言う。（単語だけで言わない。）
　例）●同じ意見のとき：「同じです。」（但し、国語では同じでも自分の言葉で話させる）
　　付け足すとき：「付け足しです。」

違う意見のとき：黙ってそのまま挙手する。　　など
○話すときには，聴いている人に体を向ける。
○聴くときには，話している人に体を向ける。
○書くときには，足は床につける。背筋を伸ばす。お腹と机の間隔は，握り拳一つ分。
（ペタン・グー・パー・ピン）

＜学習準備＞
○筆箱：カンではないもの。引き出しに入るもの。キーホルダーはつけない。
中身は　○消しゴム：１～２個（予備含む)、おもちゃではないもの
○鉛筆：削ってあるもの５～６本（飾りのないもの）
※校外学習の時は、シャーペンでもよい。
○名前ペン１本
○ミニ定規（折れ曲がり定規は使わない）
●赤鉛筆
●その他学習に必要な道具（三角定規・分度器・コンパスなど）
●筆箱は，机の前方に置く。
○教科書は，机の左，ノートの上に置く。（右ききの場合）
○ノートは，書く面が体の中央にくるようにする。
○引き出しには次の物を入れる右：教科書・ノート（持ち帰る物）
左：色鉛筆・はさみ・のり等（常時置いておく物
→パソコンを入れるため，左の引き出しは空ける。
○朝の準備で，引き出しの中にパソコンを入れる。
（●次の学習の用意をしてから、休み時間にする。）
○授業の終わりのチャイムが鳴るまで教室から出ない。

＜家庭学習＞
○宿題　→音読・漢字・計算（毎日）
クロームブック持ち帰り（４～６年…毎日，３年…２学期頃から）
日記・自学など（各学級の裁量で）
※持ち帰り…宿題等，家庭で必要なものを中心に持ち帰る。家で使わない教科書類は置いて行ってよい。

＜体育＞
○赤白帽をかぶり，体操服を着る。
○学年単独で体育館に行くときには，体育館シューズを袋ごと持っていき，体育館入り口で履き替える。
○全校集会で体育館に行くときには，教室から体育館シューズに履き替えていく。

＜その他＞
○特別教室（外体育以外）への行き帰りは，静かに並んで移動する。
○帰りの会や帰りのあいさつのときには，黄帽をかぶらない。
○目上の人（先生・学習ボランティアさん）に話すときには，ていねいな言葉で話す。
○机の横には，必要な物以外はかけない。→何もかけないのがのぞましい。

（図書袋　お道具袋　国語辞典・漢字辞典）

○プリント類は，連絡袋に入れて，持ち帰る。

★担任は予定黒板を毎日書き，授業の見通しがもてるようにする。

★担任は連絡帳をしっかりと書かせ、見届けをする。

チーム井田川で共通理解・共通指導

Ⅵ　年間計画

一学期	４月　・　研究主題設定　副主題設定 ・　研究主題設定の理由，研究内容及び指導の重点　協議 ・　指導案作成について共通認識 ５月　・　各学年　年間指導計画　単元構想　作成 （カリキュラム・マネジメント　実践） ・　学調及びみえスタディ・チェックの自校採点・分析 ６月～７月 ・　学年部授業参観（『ちょこっと参観』）
夏季休業中	７月　・　市教委等主催研修への参加 ８月　・　夏季校内研修会 「協働学習における ICT の活用について」講師招聘 学調・みえスタ課題内容への取組進捗状況交流 人権教育レポート研修会 ・　環境整備 ・　市教委等主催研修への参加
二学期	９月　・　学調分析 ・　カリキュラム・マネジメント見直し １０月　・　３年　研究授業　講師招聘　（事前検討会　事後検討会） １１月　・　５年　研究授業　講師招聘　（事前検討会　事後検討会）
三学期	１月　・　成果と課題　まとめ ・　年間指導計画の見直し カリキュラム・マネジメント見直し ２月　・　みえスタディ・チェックの自校採点・分析 ３月　・　紀要作成 ・　次年度に向けての準備